



第158期 中間報告書

2021年4月1日 ▶ 2021年9月30日



Contents

株主の皆様へ	▶ P01
事業別の概況	▶ P03
ニュース・フラッシュ	▶ P05
フルサイズミラーレスカメラ「Z 9」を発売	
ゴルフ用レーザー距離計「COOLSHOTシリーズ」を一新 ほか	
会社概況・株式の状況	▶ P07

株式会社 **ニコン**

証券コード：7731



代表取締役 兼 社長執行役員

馬立 稔和

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第158期中間期(2021年4月1日～2021年9月30日)の事業の概況についてご報告申し上げます。

■ 当中間期の概況

当中間期の経済状況は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、ワクチン接種の普及や各国の財政出動などもあり、米国・中国を中心に回復が続き、コロナ危機による落ち込みから総じて回復傾向にありました。

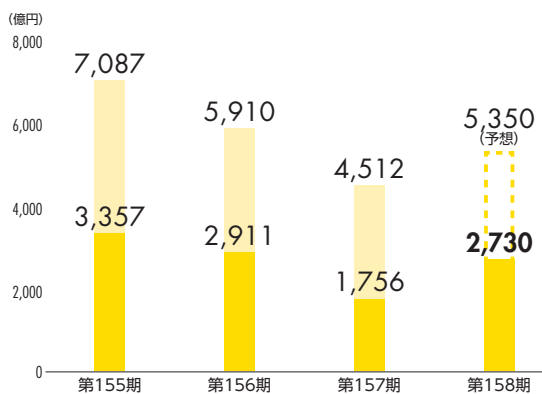
事業別では、映像事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響縮小により、需要は回復が見られますが、半導体不足等による供給問題が表面化してきています。精機事業においては、FPD関連分野は大型パネル用、中小型パネル用、いずれも設備投資は堅調に推移しました。また、半導体関連分野の設備投資は拡大基調となりました。ヘルスケア事業においては、ライフサイエンスソリューション分野の市況

は、地域による濃淡はあるものの、総じて回復基調が継続し、アイケアソリューション分野の市況は、各地域とも好調に推移しました。コンポーネント事業においては、デジタルソリューションズ事業では、光学部品・光学コンポーネントやエンコーダ関連市場が堅調に推移し、カスタムプロダクツ事業では、EUV関連市場が好調に推移しました。

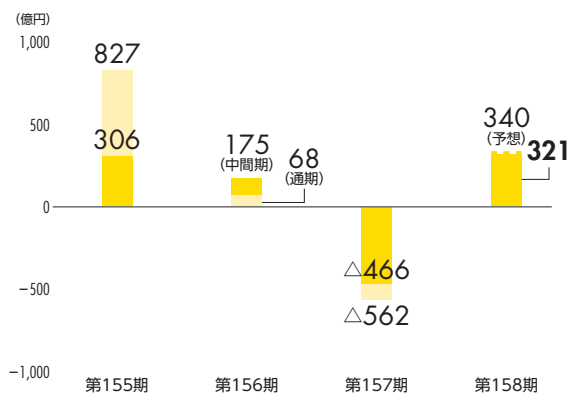
当社グループでは、2019年5月に発表した中期経営計画のもと、持続的・中長期的な企業価値向上を実現すべく、各種施策にまい進しました。

まず、映像事業においてより一層の構造改革に努めるとともに、精機事業においてサービスビジネスや周辺ビジネスの拡大を図るなど、事業収益力の強化を図ってまいりました。コンポーネント事業のスケール化に向けた取り組みにも注力し、成長領域の開拓を進めています。また、コンポーネント事業のうち、中期経営計画期間中に注力するテーマとしても掲げている材料加工事業では、計測と造形を融合した金属加工

■ 売上収益 ■ 中間期 ■ 通期

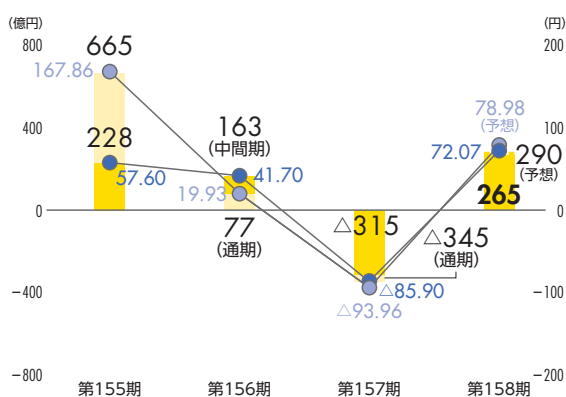


■ 営業利益 ■ 中間期 ■ 通期

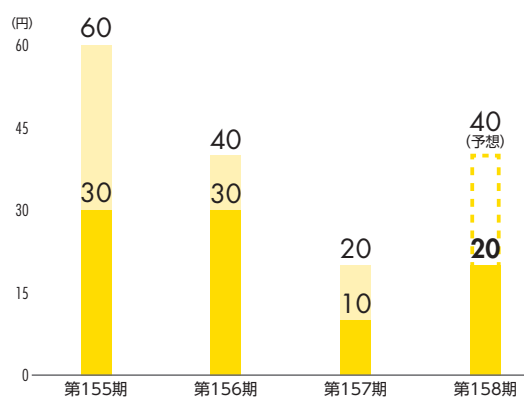


■ 親会社の所有者に帰属する当期利益 ■ 中間期 ■ 通期

● 基本的1株当たり当期利益 ● 中間期 ● 通期



■ 1株当たり配当金 ■ 中間 ■ 年間



機に加え、高精度な平面仕上げや微細加工を実現する除去加工機の受注を開始しました。

さらに、ガバナンス強化のため、取締役会の実効性向上、リスクマネジメントの強化などにも継続して取り組みました。

このような状況の下、当中間期の業績は、売上収益は2,730億49百万円、前年同期比974億2百万円(55.5%)の増収、営業利益は321億5百万円(前年同期は466億35百万円の営業損失)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は264億64百万円(前年同期は315億37百万円の親会社の所有者に帰属する四半期損失)となりました。

■ 通期の見通し

通期の事業環境は、映像事業では、デジタルカメラ市場は需要回復が期待されるものの、半導体不足等、供給問題の影響が予想されます。精機事業では、FPD関連分野は大型パネル用、中小型パネル用の設備投資は堅調に推移すると見込まれます。また、半導体関連分野は半導

体市場の活況を受け、設備投資は引き続き拡大基調になると予想されます。ヘルスケア事業では、ライフサイエンスソリューション及びAIケアソリューション分野で回復基調が継続するものと見込まれます。コンポーネント事業では、デジタルソリューションズ事業は、半導体市場やファクトリーオートメーション市場が堅調に推移し、カスタムプロダクツ事業は、EUV関連市場の需要拡大が見込まれます。

なお、年間配当予想については、総還元性向40%以上とする株主還元方針に沿って、安定配当の維持と業績予想を総合的に勘案し、2021年5月の決算発表時の配当予想1株当たり30円から、1株当たり40円に修正させていただきました。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

事業別の概況

映像事業

売上収益

892億51百万円

前年同期比 38.6%増

営業利益

125億74百万円

前年同期は △278億34百万円

主要製品 レンズ交換式デジタルカメラ・コンパクトデジタルカメラ・交換レンズ



ミラーレスカメラ[Z fc]

■ 当中間期の概要

2021年7月にニコンの歴史的カメラ「FM2」のデザインを受け継いだミラーレスカメラ「Z fc」を発売し、好評を博しました。また、ミラーレスカメラ用交換レンズのラインナップを拡充させ、プロ・趣味層向け中高級機の拡販に努め、販売台数を伸ばしました。

これらの結果、当事業の売上収益は892億51百万円、前年同期比38.6%増、営業利益は125億74百万円(前年同期は278億34百万円の営業損失)となりました。

■ 通期の見通し

デジタルカメラ市場は需要回復が期待されるものの、半導体不足等、供給問題の影響が予想されます。売上収益は1,750億円、営業利益は150億円となる見込みです。

精機事業

売上収益

1,192億89百万円

前年同期比 86.9%増

営業利益

217億35百万円

前年同期は △74億55百万円

主要製品 FPD露光装置・半導体露光装置



FPD露光装置[FX-103SH/103S]

■ 当中間期の概要

FPD露光装置分野は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う渡航制限の影響がある中でも、据付作業は順調に進み、据付できた装置が限られていた前年同期と比べて、大幅に増収増益となりました。

半導体露光装置分野では、新品装置の販売台数が減少しましたが、中古装置の販売台数が増加し、廃棄・評価損を計上した前年同期と比べて、増益となりました。

これらの結果、当事業の売上収益は1,192億89百万円、前年同期比86.9%増、営業利益は217億35百万円(前年同期は74億55百万円の営業損失)となりました。

■ 通期の見通し

FPD関連分野は大型パネル用、中小型パネル用の設備投資は堅調に推移すると見込まれます。また、半導体関連分野は半導体市場の活況を受け、設備投資は引き続き拡大基調になると予想されます。売上収益は2,170億円、営業利益は230億円となる見込みです。

セグメント変更について

当期より、新たな報告セグメントとして「コンポーネント事業」を設定し、従来、「産業機器・その他」に含まれていたデジタルソリューションズ事業、カスタムプロダクツ事業及びガラス事業を移管しています。また、「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管しています。なお、前年同期比較においては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えて比較しています。

ヘルスケア事業

売上収益

330億57百万円

前年同期比 28.6%増

営業利益

9億39百万円

前年同期は △23億58百万円

主要製品 生物顕微鏡・細胞培養観察装置・超広角走査型レーザー検眼鏡



共焦点レーザー顕微鏡システム「AX」
(研究用倒立顕微鏡「ECLIPSE Ti2-E」に装着)

■ 当中間期の概要

ライフサイエンスソリューション分野は、地域による濃淡はあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた前年同期に比べ増収となりました。アイケアソリューション分野は、各地域での市況回復により、大幅な増収となりました。

これらの結果、当事業の売上収益は330億57百万円、前年同期比28.6%増となり、営業利益は9億39百万円(前年同期は23億58百万円の営業損失)となりました。

■ 通期の見通し

ライフサイエンスソリューション及びアイケアソリューション分野で回復基調が継続するものと見込まれます。売上収益は700億円、営業利益は20億円となる見込みです。

コンポーネント事業

売上収益

167億79百万円

前年同期比 60.0%増

営業利益

34億93百万円

前年同期は △9億32百万円

主要製品 光加工機・光学コンポーネント・特注機器・FPDフォトマスク基板



光学コンポーネント

■ 当中間期の概要

デジタルソリューションズ事業は、光学部品・光学コンポーネントやエンコーダの販売が好調に推移し、増収増益となりました。

カスタムプロダクツ事業は、EUV関連コンポーネントの販売が好調に推移し、増収増益となりました。

この結果、これらの事業を含む当事業の売上収益は167億79百万円、前年同期比60.0%増、営業利益は34億93百万円(前年同期は9億32百万円の営業損失)となりました。

■ 通期の見通し

デジタルソリューションズ事業は、半導体市場やファクトリーオートメーション市場が堅調に推移し、カスタムプロダクツ事業は、EUV関連市場の需要拡大が見込まれます。売上収益は380億円、営業利益は85億円となる見込みです。

産業機器・その他

売上収益

146億72百万円

前年同期比 30.6%増

営業利益

△16億25百万円

前年同期は △5億97百万円

主要製品 工業用顕微鏡・測定機



CNC画像測定システム「NEXIV VMZ-S3020」

■ 当中間期の概要

産業機器事業では、電子部品・半導体・自動車関連の設備投資の回復基調が継続したことにより増収となり、赤字幅も縮小しました。

この結果、産業機器・その他の売上収益は146億72百万円、前年同期比30.6%増となりましたが、生産子会社における棚卸資産の廃棄評価減の影響もあり、営業損失は16億25百万円(前年同期は5億97百万円の営業損失)となりました。

■ 通期の見通し

産業機器事業は半導体・電子部品の需要を背景に、CNC画像測定システムを中心に測定機・工業用顕微鏡の販売堅調が見込まれています。売上収益は350億円、営業利益は15億円となる見込みです。

Product

「Z シリーズ」初のフラッグシップモデル フルサイズミラーレスカメラ「Z 9」を発売



Z 9

「ニコン Z マウント」を採用したフルサイズ(ニコンFXフォーマット)ミラーレスカメラ「Z 9」は、ニコンの最先端技術を結集させ、静止画・動画ともにニコン史上最高の機能・性能を備えた「Z シリーズ」初のフラッグシップモデルです。新開発の積層型CMOSセンサーと画像処理エンジン「EXPEED 7」により、ニコン史上最強のAF性能を実現。さらに、従来の人物、犬、猫に加え、新たに鳥、自転車、バイク、車、列車、飛行

機にも対応した世界最多*1の9種類の被写体検出が可能。多様な被写体の決定的なシーンを逃しません。

動画撮影においては、世界最長*1約125分*2の8K UHD/30p*3の動画を、外部レコーダーを使わずカメラ本体内のメモリーカードに記録可能。4K UHD/120p/60p/30pにも対応し、映像クリエイターの多様な動画制作のニーズに応えます。

「Z 9」は、これまでのニコンの一眼レフカメラやミラーレスカメラを超える機能・性能を有し、過酷な状況でも決定的な瞬間を確実に捉え、撮り続けることができる1台です。スポーツや報道、ファッションなど幅広いジャンルの第一線で活躍するプロフェッショナルフォトグラファーや映像クリエイターの最高のパフォーマンスをサポートします。

- ※1 2021年10月28日現在、発売済みのミラーレスカメラにおいて、ニコン調べ。
- ※2 [Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18d]使用、温度23℃時、電源オフからオンに切り替えて撮影した場合。動画撮影時は高速書き込み速度のCFexpress Type Bカード推奨。
- ※3 FXベースの動画フォーマットのみ。

News

燃費改善やCO2削減など持続可能な社会の実現に貢献 オーストリアのbionic surface technologies GmbHと戦略的共同開発契約を締結

ニコンは、計算流体力学*を用いた最先端のソリューション提供を行うbionic surface technologies GmbHと、リブレット加工技術における戦略的共同開発契約を締結しました。同社は、独自のシミュレーション技術に基づき、対象の構造物に最適ナリブレット形状の提案と性能予測を行っています。リブレット加工は、バイオミメティクス(生物模倣)の考え方を取り入れたもので、表面にリブレット構造(サメの肌の表面形状のような、微細で周期的な溝)を形成することにより、流体の抵抗を低減させエネルギー効率を改善させる加工です。ニコンが半導体露光装置で培った高精度な計測技術や微細加工技術を組み合わせ、ユニークで高効率なリブレット構造の開発などを進め、成長領域である材料加工事業を推進します。

また、ニコン独自開発の光加工機を用いたリブレット加工の受託サービスの提供を行います。リブレット加工により、燃費改善やCO2削減を可能にすることで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

* 計算流体力学: 流体や熱などの運動、移動の数値計算に関連した学問領域。

News

光学技術を生かし、デジタル天体望遠鏡の発展をサポート フランスのUnistellar SASと共同 開発基本契約を締結



eVscope 2

ニコンは、デジタル天体望遠鏡を開発・製造・販売するUnistellar SAS(ユニステラ社)とデジタル天体望遠鏡に関する共同開発基本契約を締結しました。両社が持つ技術やノウハウなどを組み合わせることにより、人々に天体観測による感動を届け、科学の発展に寄与することを目的としています。その第一弾として、ニコンが培った電子ビューファインダーの技術をアイピースに採用し、鮮明でクリアな視界を実現したデジタル天体望遠鏡「eVscope 2」をユニステラ社が発売し、ニコンの子会社、株式会社ニコンイメージングジャパンが公式オンラインショップ「ニコンダイレクト」にて販売します。

高精度かつ容易な除去加工を1台で実現 光加工機「Lasermeister 1000SE」 「Lasermeister 1000S」を発売



Lasermeister 1000S

超短パルスレーザー*1による除去加工*2で、高精度な平面仕上げや微細加工を実現する「Lasermeister 1000S」シリーズ2機種を発売。既に発売している積層造形を行う光加工機に、除去加工を行うシリーズが加わりました。ニコン独自の光利用技術と精密制御技術を組み合わせ、高精度な除去加工を様々な材料で実現。CADデータに基づく加工データの自動作成、加工前後の計測データ取得・活用により、属人的な工程の削減・統合など、DX(デジタルトランスフォーメーション)に貢献し、新しいモノづくりを実現します。

※1 超短パルスレーザー:数フェムト秒(1000兆分の1秒)から数ピコ秒(1兆分の1秒)のパルス幅をもつレーザー。対象物への熱ダメージが少ないなどの特長をもつ。

※2 除去加工:対象物の表面を削って加工する方法。

英国の先進的なDNA解読装置メーカー Oxford Nanopore Technologies Limitedとの協業に関する覚書の締結

ニコンは、DNAやRNA解読のための装置の開発、製造、販売、サービスを行う英国企業、Oxford Nanopore Technologies Limitedと、技術的な協業をはじめとする覚書を締結。同社は、ナノサイズ(ナノメートルは10億分の1メートル)の穴(ポア)を用いて、DNAやRNAの塩基配列を直接解読できる新しい世代のシークエンサーを開発しています。世界中で様々な科学研究に用いられている同社の先進的なDNAやRNAの解読技術と、ニコンの高度な顕微鏡のソリューションとを組み合わせ、ヘルスケア領域における研究や臨床現場での展開を検討していきます。



ホームページのご案内

当社ホームページでは、企業情報や財務情報、事業活動や製品情報などをはじめとする様々な情報を掲載しております。当社をよりご理解いただくためにも是非ご覧ください。

<https://www.nikon.co.jp>

ニコン

検索



持続的な成長を目指して 新本社の建設計画について

新本社
完成イメージ

ニコンは、東京都品川区の大井製作所の敷地内空地に地上6階、延床面積42,000㎡程の新本社を建設する方針を固め、2024年春の竣工に向け具体的検討を開始しました。コーポレート部門、各事業企画部門、先進R&D関連部門を集約し、開発機能の強化や事業間シナジーの創出を図ります。オフィスの稼働状況に応じた可変風量システム導入など建物全体で大幅な省エネを実現し「ZEB Ready*」認証を取得する見込みで、太陽光発電導入による創エネも行う計画です。100年以上にわたり拠点を構え、様々な製品やサービスを生み出したゆかりの地で、持続的な成長を目指します。

※ ZEB Ready: Net Zero Energy Building Ready。快適な室内環境を実現しながら、従来比較で50%以上のエネルギー消費量の削減を実現する建物。

エントリーモデルからフラッグシップモデルまで ゴルフ用レーザー距離計 「COOLSHOTシリーズ」を一新

COOLSHOT
PRO II
STABILIZED

「COOLSHOTシリーズ」のラインナップを4製品へ拡充し、デザインや機能を一新。「COOLSHOT PRO II STABILIZED」、「COOLSHOT LITE STABILIZED」には手ブレを1/5以下に低減する「STABILIZED」機能*を搭載し、小さな目標物にもレーザー光を的確に当てることが出来ます。エントリーモデルからフラッグシップモデルまで、目的や用途に応じて選択できます。

※ 手ブレによる視界の揺れ(正弦波)を1/5以下に低減(株式会社ニコンビジョンの測定条件による)。

会社概況・株式の状況 (2021年9月30日現在)

会社概要

社名(英文社名) 株式会社ニコン(NIKON CORPORATION)
本社所在地 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟
 TEL 03-6433-3600
設立年月日 1917年(大正6年)7月25日
資本金 654億76百万円
従業員数 連結 18,613名/単体 4,226名
 (注) 単体従業員数にはニコンから他社への出向者等を含みません。

役員

1. 取締役 ※ 社外取締役

取締役会議長 牛田 一雄
代表取締役 馬立 稔和 小田島 匠
取締役 徳成 旨亮 根岸 秋男* 村山 滋*
取締役 常勤監査等委員 萩原 哲 鶴見 淳
取締役 監査等委員 石原 邦夫* 蛭田 史郎* 山神 麻子*

2. 執行役員及びエグゼクティブ・フェロー

社長執行役員 馬立 稔和
専務執行役員 浜田 智秀 小田島 匠 徳成 旨亮
常務執行役員 濱谷 正人 池上 博敬 石塚 伸之
 大村 泰弘
執行役員 中山 正 金原 寿郎 山口 達也
 Hamid Zarringhalam 戸口 学 柴崎 祐一
 森田 眞弘 牧 良浩 梶原 望
エグゼクティブ・フェロー 長塚 淳 村上 直之

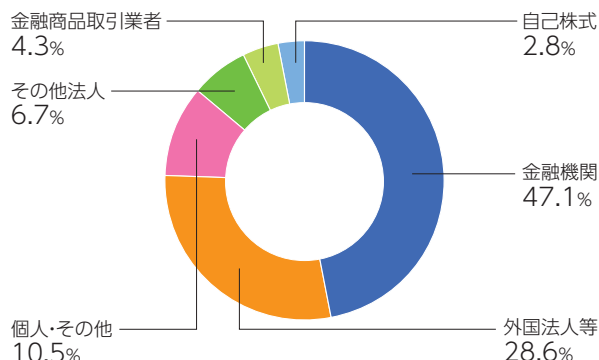
事業所

本社 〒108-6290 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟
大井製作所 〒140-8601 東京都品川区西大井1-6-3
横浜製作所 〒244-8533 神奈川県横浜市栄区長尾台町471
相模原製作所 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台1-10-1
熊谷製作所 〒360-8559 埼玉県熊谷市御稜威ヶ原201-9
水戸製作所 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町276-6
横須賀製作所 〒239-0832 神奈川県横須賀市神明町1-15

株式の状況

発行済株式の総数 378,336,521株
株主数 44,639名

所有者別株式数分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	65,133	17.7%
明治安田生命保険相互会社	19,537	5.3%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	18,498	5.0%
株式会社三菱UFJ銀行	7,009	1.9%
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	6,791	1.8%
株式会社日本カストディ銀行(信託口7)	6,430	1.7%
株式会社常陽銀行	6,121	1.7%
株式会社静岡銀行	4,996	1.4%
日本生命保険相互会社	4,697	1.3%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	4,352	1.2%

(注) 自己株式(10,560,037株)は、上記大株主から除いています。また、持株比率は自己株式を控除して計算しています。

本報告書は、注記のない限り、記載金額及び株式数は表示単位未満を四捨五入しています。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

**期末配当金
受領株主確定日** 3月31日

**中間配当金
受領株主確定日** 9月30日

定時株主総会 毎年6月

単元株式の数 100株

公告の方法

電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行います。
<https://www.nikon.co.jp/ir/bp/index.htm>

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社
 (連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 TEL 0120-232-711(通話料無料)
 (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

※表紙の写真はZ 7、NIKKOR Z 24-70mm f/4 Sで撮影したものです(撮影:星野佑佳氏)。



株式会社ニコン
 108-6290 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟
www.nikon.co.jp

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

